

第4回 草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会での意見および対応

〔南草津エリアまちづくり推進ビジョン（みなくさビジョン）素案について〕

発言者	意見（要旨）	回答	ビジョンへの反映案
1-1 橋本 委員	ゾーニングの「連携交流」という表現について、「交流」という言葉は基本方針3にも使われており、ゾーニングには使わない方が良いのではないかと。	—	【P18、19 施策の分類方針】 ◇「連携交流」を「 <u>連携強化</u> 」に修正しました。 ◇「エリア内の連携強化、広域からの交流促進」を「 <u>エリア内および広域との連携強化</u> 」に修正しました。
1-2 座長	ゾーニング図において「連携交流」は、矢印としてそれぞれの拠点との関わり合いを示しており、「連携強化」などに変わると良いと思う。		
1-3 橋本 委員	「連携交流」について、「エリア内の連携強化、広域からの交流促進」とあるが、「エリア内および広域との連携強化」とすれば良いのではないかと。		
2-1 座長	ゾーニング図に「ゾーン」も出てくるので、言葉の整理をしてはどうか。	—	【P18 施策の分類方針】 ◇「ゾーニング」を「 <u>施策の分類方針</u> 」に修正するとともに、重点的に施策を展開する「 <u>施策群</u> 」を凡例に追加しました。
3-1 花澤 委員	大津市の青山や松が丘は生活拠点が南草津になっているので、特に交通などに関しては連携していった方が良いのではないかと。	◇草津市の計画のため、草津市民の皆さんに対する計画。一方でご指摘はその通りであり、一度検討させていただきます。	【P19 施策群の展開イメージ図】 ◇「エリア内および広域との連携強化」を位置付け、大津市域とも連携を図ってまいります。 【P27 施策③コ】 ◇「コ. 地域公共交通網形成計画に基づく交通ネットワークの形成」に向けて、関係事業者とともに市域外を含めた円滑な交通ネットワークの確保に努めます。
4-1 有村 委員	前回、将来像に南草津エリア感が少ない、企業と大学が地域に折り合ったら良いのではないかと指摘したが、産学連携というのはどこにでもある話で、南草津らしさのフックになるものといえば、琵琶湖が近いこともあり、環境や省エネだと思う。推進体制の「学術・研究複合連携プロジェクト」の中に、環境や省エネ、SDGsといった持続可能な社会づくりなどのワードを入れていただくと、南草津ならではのビジョンが鮮明になるのではないかと。	—	【P22 施策①ウ】 ◇施策内容において「～地域活動・交流プログラム（ <u>スポーツ健康、食、歴史、環境、防災、SDGs等</u> ）」と（ ）を追加しました。 【P33 推進体制の構築イメージ図】 ◇施策と内容が重複するため、プロジェクトについては表記せず、推進体制の構築イメージのみ図にて示すこととしました。

5-1 橋本 委員	過去の議論の中で防災意識の高まりが感じられるということで、施策の中にも防災という言葉を入れていただいたが、推進体制に防災という言葉が入っていないのが非常に残念。防災は市民の皆さんが自分に関連するテーマだと捉えられると思うので、安全安心というからには防災という言葉が入った方が良く感じた。例えば、施策の「地域再生拠点の形成」というところを、「地域再生・防災拠点の形成」とすれば良いと思う。	◇地域まちづくりセンターは避難所にもなっているので、ソフト的な展開も含めて考えていく。一方で、河川改修などのハード面を含めて防災まちづくりを進めていく必要があると思うので、ご指摘いただいた内容を反映する方向で整理したいと思う。	【P24 施策②カ】 ◇「地域まちづくりセンターの更新と地域再生・防災まちづくりの推進」に修正しました。 【P13 イメージパース】 ◇防災活動の事例として、地域まちづくりセンターでの防災活動（イベント）のイメージパースを掲載する予定です。
5-2 座長	まちづくりと防災を絡めた実例もあるので、参考資料にこういったことが取り込まれているというような紹介もあれば良いのではないかと。		
5-3 笠井 委員	防災という言葉を加えるべきという意見があったが、私も同意見。マンションがたくさん建ってきているが、表札が無いところも多く誰が住んでいるのかわからないということもあり、どれだけの人が地域まちづくりセンターに避難してくるのか把握するのが難しいと思う。防災を大きく取り扱っていただきたいし、責任をもって取り組んでいる区長の負担も減るのではないかと。また、JR南草津駅が一番混んでいる時間帯で何かあった場合にどうするのかなど、細かい所も議論されれば良いと思う。		
6-1 有村 委員	ワークショップ成果にフェリエのオープン化という提案があったように、フェリエを基盤にして大学や企業、市民が寄り合ってSDGsのようなことをテーマに物事を考えていくことができれば、南草津のビジョンを鮮明化していくのではないかと。	—	【P25 施策③イ】 ◇施策内容の「フェリエ南草津における、施設の将来像と幅広い視点からの活用方法の検討」を進めていく中で、地域や大学・企業、関係団体および行政等連携体制の構築を目指します。
7-1 長谷部 委員	市民がどのように能動的に関わっているかリソースを提示していただければありがたい。南草津であればUDCBKといったように、まちづくりに参加する上でどのようなリソースがあるかという資料があると、市民が関わりやすい。	◇市民や行政の役割をどうしていくのかということも大事な視点であり、推進体制もしくは参考資料に入れるか検討したいと思う。	【P32、33 推進体制】 ◇推進体制の構築イメージとして、地域や大学・企業、関係団体および行政等の連携体制のもとと取り組むを進めることを記載するとともに、各主体の役割分担について記載しました。 ◇図 5-1 において、推進体制の構築イメージを掲載しました。
7-2 座長	各主体の役割について、現在は推進体制に図としてあるだけだが、それぞれの立場と関わり合いを書くことができるか。		
7-3 座長	推進体制について、組織体系を伝えたいのか、色んな人たちが関わってプロジェクトを進めていくという旨を伝えたいのかわかりづらいと思います。	◇各主体の役割も含めて整理させていただきたい。	

7-4 石垣 委員	推進体制について、地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化プロジェクトとあるが、市は地域まちづくりセンターにどのような役割を与えることを意識しているのか。	<p>◇地域まちづくりセンターでは、各学区のまちづくり協議会に指定管理等をしていたが、自主的なまちづくりを行っていただいている。</p> <p>◇老上、玉川、矢倉学区で、施設の老朽化を踏まえ施設の更新をする際に、従来の役割に留まらず色々な付加価値を持たせた課題解決型の地域まちづくりセンターとして、まちづくり協議会の皆さんと共にしっかり考えていきたい。</p>	
7-5 石垣 委員	従来の地域まちづくりセンターの位置づけより一段階上げて何か役割を与えるということか。	<p>◇例えば老上学区では、隣に消防団、備蓄倉庫があり、消防団と連携した防災拠点として複合的な利用が想定できる。地域の皆さんが主体となって、従来のまちづくりセンターに留まらず、付加機能や周辺施設との連携を視野に入れて考えていくことが良いのではないかと思う。</p> <p>◇地域の皆さんがこういう地域まちづくりセンターにしたいというビジョンを描かなければ実現に向かっていけないので、まちづくり協議会が地域の皆さんの間に入っていたが、基本計画や実施設計をしていくという形になると思う。</p>	
8-1 足立 委員	今後、社会情勢が変化していくと思うので、このビジョンをベースにしながらフレキシブルに進めていった方が良いのではないかと思う。	—	【P32、33 推進体制】 ◇各施策については、「プロジェクトの実施に向けた研究会やプロジェクトの推進体制を構築」することで社会情勢の変化や市民ニーズを踏まえた、フレキシブルな体制で検討していきたいと考えております。
8-2 座長	推進体制に「プロジェクト実現に向けた研究会やプロジェクトの推進体制を構築し」とあるように、行政のプロジェクトというよりは世代や主体を超えた研究会ができれば良いと思う。		【P34 ビジョンの見直しについて】 ◇ビジョン自体も、「5年程度のPDCAサイクルを取り入れ」見直しを検討します。

9-1 棚橋 委員	南草津はJR草津駅周辺と同等にまちづくりを進めていこうという市の思いもあると思うが、住んでいる人は大きく変化しているところもあると思う。先ほど、大津市の人も南草津の公共交通機関を利用しているという意見もあった。将来像、基本方針のところに「検討」という言葉もあるが、しっかり実現する方向に向かっていただくことが一番大切なことだと考える。ワークショップなどを重ねると色々な意見が出てくるが、一番実現に近いものから将来を見越して進めていただければと思う。	—	【P32 推進体制】 ◇各施策については、「南草津エリアのまちづくりにおいて波及効果が高く、早期に実現可能と考えられる施策を重点的に実施していき、」まちづくりを進める上での契機としてまいります。
10-1 座長	ビジョンに反映したワークショップでの意見が整理されていたと思うので、ワークショップの提言のページに載せていただければと思う。	—	【P7～8 ワークショップの提言】 ◇各グループのワークショップ実施成果から、本ビジョンの課題に反映した主な意見を記載しました。
10-2 田村 委員	ワークショップのように既存のものを全て真っ白にするのはお金と時間さえあれば簡単だが、もう少し既存の集落などを活かしたまちづくりが必要なのではと思う。歴史を活かしていただきたいという話を以前させていただいて議事録にも載せていただいているが、全て潰されてまちづくりが進むことに喜ぶ方がいる反面、自然がなくなったと考える方もいることを認識していただきたい。遺跡や歴史が住宅に埋もれてしまうことが危惧されるのがまさに南草津の現状ではないかと思う。0からではなく50から考えるのも大事だと思う。	◇ワークショップでは各班でシナリオを描き、未来予想図が出来上がっているが、そうじゃない方法も皆さんご理解なさってのことだと思う。 ◇コンパクトシティや交通の問題を踏まえた上で、できる限り自然を新しい形で取り戻していけないかといったことも含めた考えになっている。 ◇これでいいですよねということではなく、議論を進めていききっかけとして絵を描いていただいたと思っている。	【P61～63 参考7】 ◇各グループのワークショップ実施成果は、参考資料に掲載しました。
10-3 田村 委員	まちづくり協議会でも進んでしまっているが、コミュニティがなくても個人でも生きていけるという考え方が浸透しているのが、今のまちではないかと思う。	◇参考資料としてワークショップではこういった内容があったという扱いにしてはどうかと思う。	
11-1 長谷部 委員	素案を見た時に、読むには少し難しいと思う。	◇概要版は別立てで考えているが、一度検討する。	◇概要版は、ビジョンとは別立てで作成することとさせていただき、概要版はビジョン第1章から第5章までを網羅的に掲載し、特に施策体系については、課題～将来像・目標～基本方針～施策までを見開きで確認できるように整理しました。
11-2 座長	概要版は要約としてビジョンの最初の方に入るのか。 学生の論文も最初に概要版が差し込まれる構成にしている。一番分かりやすい施策の体系に辿り着くまでに時間がかかるので、最初にあると良いと思う。		
12-1 石垣 委員	ワークショップ成果の資料に、素晴らしいパスがある。これを夢という形で皆さんが見られる機会を設けてほしい。	◇2月17日18時からワークショップの報告会を実施予定。コロナ対策でオンラインを中心となるが、UDCBKでも10名まで入れるようになっているので、お時間があれば見に来ていただければと思う。また、成果物はUDC	—
12-2 座長	ぜひ拡散していただければと思う。		

		BKに展示するなど、広く皆様に見ていただける機会を設けたい。	
13-1 有村 委員	非常に分かりやすくなったなというのが印象で、ワークショップ成果のビジュアル化されたものが一番ダイレクトに伝わりやすいと思う。未来のまちがこうして絵で見られることはとても良いと思う。	◇将来像はキャッチフレーズだけのため、将来こういう状態を目指しますという言葉やイラストを用いるとイメージしやすいのではないかと思います。ビジュアル的にどう見せるか検討する。	【P12～15 将来像・目標】 ◇目標をイメージできるようなパースを作成し、掲載しました。 ◇指標については、新型コロナウイルス感染症の流行や新たな生活様式への移行など急激な変化を考慮し、アウトプット指標は用いず、「平成 30 年度 草津市のまちづくりについての市民意向調査」の設問「まちの住み心地等」において「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の割合を設定しました。 ◇なお、目標値については、現在、策定を進めております第6次草津市総合計画第1期基本計画での目標値の検討状況を参照した上で設定します。
13-2 笠井 委員	ワークショップに参加したが、色々な意見が集約されてこうした素晴らしい絵になっていることに感動した。文章がたくさん並んでいるだけではわかりづらいが、絵はすぐ目に入ってきて分かりやすい。		
13-3 新谷 委員	資料がとても分かりやすく、今まで議論されていた内容が詰まっています。核となる将来像について文字が並んでいるだけだとビジョンを描くのが難しいと思う。絵を描くのが最善かはわからないが、こういう未来を描いているというイメージが伝わりやすいような表現にすると良いと思う。		
13-4 長谷部 委員	将来像の「にぎわいのあるまち」の「にぎわい」は、何を指しているのか。人口が増えて住む人が増えることもにぎわいと言えるかもしれないが、人口が増える一方で人のつながりが減ってくるという面もあるので、それがまちのにぎわいにつながるかはわからないと思う。ここのにぎわいはどういうイメージなのか気になる。 私は、住民同士で交流が生まれ、広場で市民が色々な活動をしているなど、市民が能動的にまちに関わることがにぎわいだと思う。	◇にぎわいというのは単に市民の皆さんに留まらず、南草津に訪れた色々な皆さんが関わって、人の交流をもつてにぎわいを出していくイメージ。皆さんに正確に伝わるように検討したいと思う。 ◇今回は、指標の整理ができなかったが、指標があればイメージしやすいと思う。	
13-5 座長	目標の「多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち」のにぎわいについては、「滞留・交流活動から魅力的な都市空間を形成し」とあるので、そこに人がいるという風景のことだと理解できる。		